

【校訓】 「自律・向上・友愛」

【教育目標】 「～新しい時代を生き抜く生徒の育成～」

校長 野々上 勝



1学期の行事、山を越えました。

5月25日(日)運動会、5月30日(金)2年生広島平和学習、6月4日(水)～6日(金)3年生修学旅行、6月18日(水)～20日(金)期末テストと行事が目白押しだった山を越え、運動部は県総体出場を懸けた美作総体に向けて、練習にも力が入っているところです。

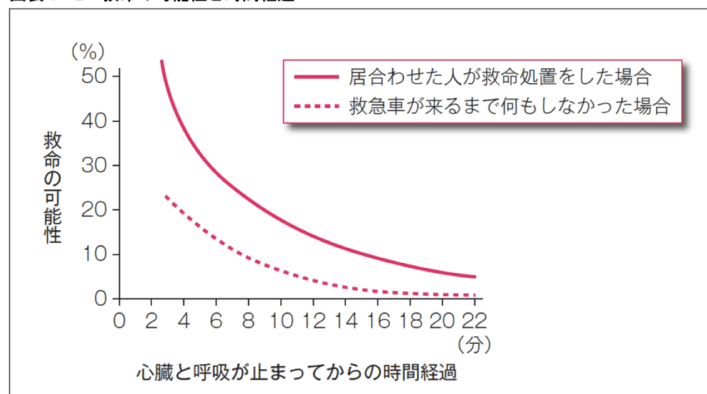
美作総体の結果については7月号でお知らせします。

* 救急救命講習会

6月11日(水)、真庭消防署湯原分署から2名の講師をお迎えし、全学年で心肺蘇生法とAED操作法の講習を受けました。真庭市の発表によると、令和6年度中の真庭市消防本部の救急車の平均現場到着時間は約11分間だったそうです。

右のグラフからもわかるように、心停止から1分ごとに、救命率は7～10%下がります。救急車到着までの1分経過時点まで何もできずにいた場合、救命率は10%以下になってしまいます。

図表 1-2 救命の可能性と時間経過



(注) 厚生労働省「救急蘇生法の指針 2015 (市民用)」による。

また、岡山県の発表によると、「一般市民」が心肺停止の傷病者を目撃し、蘇生処置など応急手当を施すと、1カ月後の生存率は手当をできなかった場合に比べ4倍に跳ね上がるというデータも公表されています。応急手当の有無が生死に深く関わることは明らかです。そうは言うものの、中学生にとって傷病者を目の前にして心肺蘇生を行おうとすることはとても勇気がいることです。怖いとさえ感じるかもしれません。しかし、想像してください。家族や友人など、自分にとってかけがえのない人がそういう状況に陥った場合、どうしますか？ 見知らぬ人だったとしても、その人にもご家族など、大切な方がいらっしゃると思います。つまり、命はすべての人にとって何にも代えがたい大切なものなのです。もし、あなたがその場に居合わせた場合、あなたの勇気が、傷病者、その関係する方々、そしてあなた自身のその後の人生までも大きく変えることにつながるのです。今回、学習したスキルをしっかり覚えていてほしいものです。

3年生 美術科作品



* 7月の主な予定

7月	4日 (金)	学校評価アンケート
	8日～ (火)～	5時間授業
	11日 (金)	夏ボラ事前研修
	12～13日 (土日)	県総体 (水泳)
	16日 (水)	大掃除
	17日 (木)	三者懇談 (家庭学習日)
	18日 (金)	終業式・リサイクル活動
	19・22日 (土・火)	県総体 (卓球・バド)

